

第4回行政評価委員会

令和元年9月4日（水）
午後6時30分から
市役所4階大会議室

評価対象事務事業シート

| No. | 時間 | 担当課 | 事務事業名 | 判断理由 | ページ番号 |
|-----|-------|-------|----------------------|----------|-------|
| 10 | 18:40 | 長寿介護課 | (介保) 介護保険認定事務 | 委員選定 | 1 |
| 11 | 19:05 | 〃 | 敬老事業 | 低評価 | 5 |
| 12 | 19:30 | 〃 | ふれあいプラザ運営事業 | 二次判定・低評価 | 9 |
| 13 | 19:55 | 〃 | デイサービスセンター運営事業 | 低評価 | 13 |
| 14 | 20:20 | 〃 | 三世代交流拠点施設運営事業 | 低評価 | 17 |
| 15 | 20:45 | 〃 | (介保) 在宅高齢者家族介護手当支給事業 | 低評価 | 21 |

- ※ 審議の経過によって多少の時間変更が生じる場合があります。
- ※ 12～14は、同じ属性（施設の管理・運営事業）であることから、一括して審議をお願いします。
- ※ また、12～14は、今年度、縮小・廃止等も視野に入れた見直しに着手しています。

事務事業の概要・計画 (PLAN)

| | | | | | | | |
|----------------|--|------|-------------|-------------------|---------------------|-------|---|
| 事務事業名 | (介保)介護保険認定事務 | 会計名称 | 介護保険特別会計 | | 担当課 | 長寿介護課 | |
| | | 予算科目 | 1 款 1 項 4 目 | 事業番号 | 8095 | 所属長名 | 室潤子 |
| 事業評価の有無 | <input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ) | | | | 担当責任者名 | 中塚正洋 | |
| 法令根拠等 | 介護保険法 | | | | 実施期間 | 【開始】 | 平成 17 年度 |
| 総合計画での位置付け | 健康福祉都市の創造 健やかで生きがいの持てる高齢者福祉の実践 | | | | | 【終了】 | 平成 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし |
| 総合計画における本事業の役割 | 基本計画2-4「心の通った社会福祉の推進」の原資となる事業 | | | 事業の対象 | 要介護(要支援)認定を受けようとする者 | | |
| 事業の目的 | 介護(介護予防)支援が必要な者に対して適切な介護(予防)サービスに繋げるため。 | | | 昨年度の課題 | | | |
| 事業の内容(整備内容) | 要介護(要支援)認定を受けようとする者に対する「認定申請受付」「認定調査」「主治医意見書取得」「認定結果通知」の事務 | | | 昨年度の課題に対する具体的な改善策 | | | |

事業活動の内容・成果 (DO)

| 事業費及び財源内訳 (千円) | | | | | | | 事業活動の実績 (活動指標) | | | | | |
|----------------------|-----------|--|--------------------------|--------|------------------|--------|----------------|--------|--------|---------|--------|--------|
| 項目 | 前年度決算 | 当初予算額 | 補正予算額 | 継続費その他 | 翌年度繰越 | 決算額 | 項目 | 単位 | 29年度実績 | 30年度予定 | 9月末の実績 | 30年度実績 |
| 直接事業費 | 26,315 | 24,808 | 0 | 0 | 0 | 18,426 | 認定調査件数 | 件 | 2473 | 2500 | 966 | 1893 |
| 財源内訳 | | | | | | | | | | | | |
| 国庫支出金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| 県支出金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| 地方債 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| その他 | 249 | 302 | 0 | 0 | 0 | 287 | | | | | | |
| 一般財源 | 26,066 | 24,506 | 0 | 0 | 0 | 18,139 | | | | | | |
| 職員の人工(にんく)数 | 1.00 | 0.80 | | | | 0.80 | | | | | | |
| 1人工当たりの人件費単価 | 8,017 | 7,982 | | | | 7,982 | | | | | | |
| ※ 直接事業費+人件費 | 34,332 | 31,194 | | | | 24,812 | | | | | | |
| 主な実施主体 | 伊予市 | | 実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄) | | 直接実施(臨時職員1人を含む。) | | | | | | | |
| 向こう5年間の直接事業費の推移 (千円) | | | | | 31年度 | 32年度 | 33年度 | 34年度 | 35年度 | 5年間の合計 | | |
| | | | | | 25,000 | 25,000 | 25,000 | 25,000 | 25,000 | 125,000 | | |
| 成果指標 | 指標 | 2次判定(介護認定審査会)からの差戻件数 | | 単位 | 件 | 区分年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 目標 毎年度 | | |
| | 指標設定の考え方 | 本事業による1次判定の結果はこの事業の成果と捉えられるが、それが適正な情報に基づいて判断されているかを判断するものとして、介護認定審査会における2次判定がある。2次判定において差戻しがある場合は、この事業が適正に実施されていない場合が想定されるため、2次判定からの差戻件数を成果のものとした。 | | | | ⇒ | 目標 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 指標で表せない効果 | 本事業の実施では、介護等が必要な者やその家族、ケアマネ、医師の協力が不可欠であり、それぞれの局面において携わる者の資質が、本事業の成果のみならず、市民の介護保険制度への理解と協力への成果に直結している。 | | | | | 実績 | 0 | 0 | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

事務事業評価 (CHECK)

| | | | | | | | | | | | |
|--|-----------------------|--|--|--|-------------|-------------|--|----------|-----------------------------------|--|--|
| <p>新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)</p> | | <p>今年度から調査を委託することとなり、今後も引続き委託する予定である。</p> | | | | | | | | | |
| <p>事務事業の評価</p> | <p>自己判定 (担当責任者)</p> | <p>妥当性</p> | <p>目的の妥当性</p> | <p>5 4 3 2 1 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 概ね、施策の目的に沿った事業である。</p> | <p>5</p> | <p>合計点が</p> | <p>14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D</p> | <p>S</p> | <p>事業成果・工夫した点 事業の苦勞した点・課題</p> | <p>委託により日程調整等の事務量の軽減に繋がった。</p> | |
| | | | <p>社会情勢等への対応</p> | <p>5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。</p> | <p>5</p> | | | | | <p>特になし。</p> | |
| | | | <p>市の関与の妥当性</p> | <p>5 4 3 2 1 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。</p> | <p>5</p> | | | | | <p>合計点が</p> | |
| | | <p>有効性</p> | <p>事業の効果</p> | <p>5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。</p> | <p>4</p> | <p>合計点が</p> | | | | | |
| | | | <p>成果向上の可能性</p> | <p>5 4 3 2 1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。</p> | <p>3</p> | <p>合計点が</p> | | | | | |
| | | | <p>施策への貢献度</p> | <p>5 4 3 2 1 施策推進につなげることができる。 施策推進につなげられない。 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。</p> | <p>3</p> | <p>合計点が</p> | | | | | |
| | <p>効率性</p> | <p>手段の最適性</p> | <p>5 4 3 2 1 活動指標の実績も上らず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。</p> | <p>4</p> | <p>合計点が</p> | | | | | | |
| | | <p>コスト効率</p> | <p>5 4 3 2 1 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担の検討の余地がある。</p> | <p>3</p> | <p>合計点が</p> | | | | | | |
| | | <p>市民 (受益者) 負担の適正</p> | <p>5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。</p> | <p>3</p> | <p>合計点が</p> | | | | | | |
| | <p>一次判定 (所属長)</p> | <p>妥当性</p> | <p>目的の妥当性</p> | <p>5 4 3 2 1 概ね、施策の目的に沿った事業である。 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。</p> | <p>5</p> | <p>合計点が</p> | <p>14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D</p> | <p>S</p> | <p>事業の方向性 所属長の課題認識</p> | <p>■ 事業継続と判断する。 □ 事業縮小と判断する □ 事業廃止と判断する (判断の理由) 介護保険制度運営のため基礎となる事務であり、継続しなければならない。</p> | |
| | | | <p>社会情勢等への対応</p> | <p>5 4 3 2 1 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。</p> | <p>5</p> | | | | | <p>合計点が</p> | |
| | | | <p>市の関与の妥当性</p> | <p>5 4 3 2 1 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。</p> | <p>4</p> | | | | | <p>合計点が</p> | |
| <p>有効性</p> | | <p>事業の効果</p> | <p>5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。</p> | <p>4</p> | <p>合計点が</p> | | | | | | |
| | | <p>成果向上の可能性</p> | <p>5 4 3 2 1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。</p> | <p>4</p> | <p>合計点が</p> | | | | | | |
| | | <p>施策への貢献度</p> | <p>5 4 3 2 1 施策推進につなげることができる。 施策推進につなげられない。 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。</p> | <p>4</p> | <p>合計点が</p> | | | | | | |
| <p>効率性</p> | <p>手段の最適性</p> | <p>5 4 3 2 1 活動指標の実績も上らず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。</p> | <p>3</p> | <p>合計点が</p> | | | | | | | |
| | <p>コスト効率</p> | <p>5 4 3 2 1 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担の検討の余地がある。</p> | <p>3</p> | <p>合計点が</p> | | | | | | | |
| | <p>市民 (受益者) 負担の適正</p> | <p>5 4 3 2 1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。</p> | <p>4</p> | <p>合計点が</p> | | | | | | | |

| | | | | |
|-----------|------|-------------------------------------|---|--|
| 施策を踏まえた判断 | 二次判定 | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。 | ⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業継続と判断する。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。 | |

| | | |
|------------|------|-------|
| 行政評価委員会の答申 | 外部評価 | 答申の内容 |
| | | |

今後の方向性 (ACTION)

| | | | |
|---------|--------------------------|------------------|-------|
| の経営者判断議 | 事業の方向性 | | コメント欄 |
| | <input type="checkbox"/> | さらに重点化する。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 現状のまま継続する。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 右記の点を見直しの上、継続する。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 事業の縮小を行う。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 事業の休止、廃止を行う。 | |

平成30年度事務事業補助シート

事務事業名

介護認定事務

事務事業の概要・計画(PLAN)の補足

事業の性格

- 独立した事業であり、このシートだけで十分事業の説明が可能である。
- 下記に掲げる事業と密接な関係があり、これらのシートと合わせてこの事業の説明が可能である。

| 事業コード | 事務事業名 | 事務事業の概要 |
|-------|-------|---------|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

事業の類似性

- 独自性が強く、類似する事業は思い浮かばない。
- 下記に掲げる事業において、摘要に掲げる項目に関し類似性が認められる。

| 事業コード | 事務事業名 | 摘要 |
|-------|-------|----|
| | | |
| | | |
| | | |

事業活動の内容・成果(DO)の補足

直接事業費(単位:千円)の内訳(説明に必要と思われる項目を列記すること)

| 直接事業費 | 18,426 | (決算額の数値を記入) | |
|------------|--------|-------------|----------------------------|
| 節 | 細節 | 事業費 | 摘要 |
| 賃金 | 臨時職員賃金 | 2,217 | 賃金、期末手当(新規認定調査員) |
| 需用費 | 消耗品費 | 78 | プリンターカートリッジ代(認定支援システム用) |
| 需用費 | 燃料費 | 16 | ガソリン代(訪問調査用) |
| 需用費 | 印刷製本費 | 110 | 封筒印刷代 |
| 役務費 | 通信運搬費 | 1,150 | 認定支援システム回線利用料、主治医意見書依頼用郵送料 |
| 役務費 | 手数料 | 8,474 | 主治医意見書作成料 |
| 委託料 | | 6,381 | 認定調査委託料(市内分(更新・区分変更)、市外分) |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 上記以外の事業費合計 | | 0 | 一般事務費、上記で書き表せないもの |

その他の補足

添付資料は用意すること

別添添付資料

- 位置図(施設の場所、作業場所など)
- パンフレット
- その他国や県が出している参考資料
- その他(独自に作成した概要、説明資料)
- 特になし

参考データ

- 伊予市ホームページ
 (検索ワード)
- その他参考となるホームページ
 (検索ワード)

事務事業の概要・計画 (PLAN)

| | | | | | | | |
|----------------|---|------|-------------|-------------------|--|-------|---|
| 事務事業名 | 敬老事業 | 会計名称 | 一般会計 | | 担当課 | 長寿介護課 | |
| | | 予算科目 | 3 款 1 項 9 目 | 事業番号 | 1270 | 所属長名 | 室潤子 |
| 事業評価の有無 | <input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ) | | | | 担当責任者名 | 澤井伸剛 | |
| 法令根拠等 | 伊予市敬老会実施事業費補助金交付要綱、伊予市敬老祝金贈呈要綱 | | | | 実施期間 | 【開始】 | 平成 17 年度 |
| 総合計画での位置付け | 健康福祉都市の創造 健やかで生きがいの持てる高齢者福祉の実践 | | | | | 【終了】 | 平成 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし |
| 総合計画における本事業の役割 | 高齢者福祉の根底にある「敬老」について、意識の醸成のための活動を行うことにより、豊かで生きがいのある老後の生活及び地域における支え合いの体制づくりを推進する。 | | | 事業の対象 | 伊予市在住の75歳以上の高齢者 | | |
| 事業の目的 | 地域社会の進展に寄与された高齢者に敬意を表し、高齢者を地域で支えるという住民意識の啓発により高齢者福祉の増進及び地域コミュニティの強化を図る。 | | | 昨年度の課題 | 補助金の使途について見直しを行ったが、出席率が50%を下回っている。敬老会のあり方について見直しを行うこと。 | | |
| 事業の内容(整備内容) | 敬老週間(9/15~9/21)を中心に広報区等の団体が開催する敬老会に要する経費に対し、満75歳以上の住民1人当たり2,000円の補助金を交付する。 88歳(米寿)の方に対し、5,000円相当の記念品を贈呈する。 100歳の方に対し、市長が訪問し表彰及び50,000円の祝金を贈呈する。 | | | 昨年度の課題に対する具体的な改善策 | 補助金の実績報告書の添付書類として領収書の写しを追加した。75歳以上の高齢者が出席したくなるよう各実施団体が工夫を凝らした敬老会を開催した。 | | |

事業活動の内容・成果 (DO)

| 事業費及び財源内訳(千円) | | | | | | | 事業活動の実績(活動指標) | | | | | |
|---------------------|---|---------------------------------|--------------------------|--------|--------|--------|----------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 項目 | 前年度決算 | 当初予算額 | 補正予算額 | 継続費その他 | 翌年度繰越 | 決算額 | 項目 | 単位 | 29年度実績 | 30年度予定 | 9月末の実績 | 30年度実績 |
| 直接事業費 | 14,099 | 14,623 | 0 | 0 | 0 | 14,118 | 祝賀対象者(満75歳以上総数) | 人 | 6420 | 6477 | 6427 | 6427 |
| 財源内訳 | | | | | | | | | | | | |
| 国庫支出金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| 県支出金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| 地方債 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 敬老会開催会場 | 箇所 | 67 | 78 | 58 | 77 |
| その他 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| 一般財源 | 14,099 | 14,623 | 0 | 0 | 0 | 14,118 | | | | | | |
| 職員の人工(にんく)数 | 0.45 | 0.45 | | | | 0.45 | 上記祝賀対象者(敬老会開催地域対象者数) | 人 | 6339 | 6477 | 6205 | 6309 |
| 1人当たりの人件費単価 | 8,017 | 7,982 | | | | 7,982 | | | | | | |
| ※直接事業費+人件費 | 17,707 | 18,215 | | | | 17,710 | | | | | | |
| 主な実施主体 | 委託 | | 実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄) | | 補助金 | | 敬老会出席者 | 人 | 2666 | 3239 | 2513 | 2620 |
| 向こう5年間の直接事業費の推移(千円) | | | | | 31年度 | 32年度 | 33年度 | 34年度 | 35年度 | 5年間の合計 | | |
| | | | | | 15,000 | 15,000 | 15,000 | 15,000 | 15,000 | 75,000 | | |
| 成果指標 | 指標 | 敬老会開催地区の満75歳以上の祝賀対象者の出席率 | | | 単位 | 区分年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 目標 毎年度 | | |
| | | | | | % | 目標 | 50 | 50 | 50 | 50 | | |
| | 指標設定の考え方 | 敬老会未実施地区を除く祝賀対象者のうち敬老会に出席した者の割合 | | | ⇒ | 実績 | 42.1 | 41.5 | | | | |
| 指標で表せない効果 | 市民一人ひとりが高齢者を支えるという、社会福祉の基本となる住民意識を維持・向上させる。 | | | | | | | | | | | |

事務事業評価 (CHECK)

| 新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過) | | 未実施の地区に近隣との合同開催など工夫した取り組みを奨励したが、地区全体の高齢化により実施は困難であった。 | | | | | | | | | |
|---------------------------------|--|---|---|---|---|---|---|---|---------------------------|--|--|
| 事務事業評価 | 自己判定 (担当責任者) | 妥当性 | 目的の妥当性 | 5 4 3 2 1 | 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 概ね、施策の目的に沿った事業である。 | 3 | 合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | B | 事業成果・工夫した点 事業の苦勞した点・課題 | 実績報告書に領収書の写しを添付してもらうことにより、補助金の使途を確認することができた。 | |
| | | | 社会情勢等への対応 | 5 4 3 2 1 | この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 | 3 | | | | | |
| | | | 市の関与の妥当性 | 5 4 3 2 1 | 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 | 3 | | | | | |
| | | 有効性 | 事業の効果 | 5 4 3 2 1 | 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 | 3 | | | | | |
| | | | 成果向上の可能性 | 5 4 3 2 1 | 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 | 3 | | | | | |
| | | | 施策への貢献度 | 5 4 3 2 1 | 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。 施策推進に向け、効果を認めることができる。 | 3 | | | | | |
| | 効率性 | 手段の最適性 | 5 4 3 2 1 | 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 | 3 | | | | | | |
| | | コスト効率 | 5 4 3 2 1 | 活動指標の実績も上らず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 | 3 | | | | | | |
| | | 市民 (受益者) 負担の適正 | 5 4 3 2 1 | 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 | 3 | | | | | | |
| | 一次判定 (所属長) | 妥当性 | 目的の妥当性 | 5 4 3 2 1 | 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 概ね、施策の目的に沿った事業である。 | 3 | 合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | B | | 事業の方向性 | ■ 事業継続と判断する。 <input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する <input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する (判断の理由) 事業目的の趣旨から、現段階では継続とする。 |
| | | | 社会情勢等への対応 | 5 4 3 2 1 | この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 | 2 | | | | | |
| | | | 市の関与の妥当性 | 5 4 3 2 1 | 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 | 3 | | | | | |
| 有効性 | | 事業の効果 | 5 4 3 2 1 | 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 | 2 | | | | | | |
| | | 成果向上の可能性 | 5 4 3 2 1 | 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 | 2 | | | | | | |
| | | 施策への貢献度 | 5 4 3 2 1 | 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。 施策推進に向け、効果を認めることができる。 | 3 | | | | | | |
| 効率性 | 手段の最適性 | 5 4 3 2 1 | 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 | 2 | | | | | | | |
| | コスト効率 | 5 4 3 2 1 | 活動指標の実績も上らず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 | 2 | | | | | | | |
| | 市民 (受益者) 負担の適正 | 5 4 3 2 1 | 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 | 3 | | | | | | | |
| 所属長の課題認識 | 事業目的から、敬老事業の必要性は認識するが、具体的内容について今後、見直しが必要である。 | | | | | | | | | | |

| | | | | |
|-----------|------|-------------------------------------|--|--|
| 施策を踏まえた判断 | 二次判定 | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。 | ⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。 |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業継続と判断する。 | |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。 (低評価のため行政評価委員会に諮る。) 2次評価者評価のとおり、事業は継続と判断するが、事業自体の有効性・効率性について検討を行う必要がある。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。 | |

| | | |
|------------|------|-------|
| 行政評価委員会の答申 | 外部評価 | 答申の内容 |
| | | |

今後の方向性 (ACTION)

| | | | |
|--------|--------------------------|------------------|-------|
| の経営者判断 | 事業の方向性 | | コメント欄 |
| | <input type="checkbox"/> | さらに重点化する。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 現状のまま継続する。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 右記の点を見直しの上、継続する。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 事業の縮小を行う。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 事業の休止、廃止を行う。 | |

平成30年度事務事業補助シート

| | |
|-------|------|
| 事務事業名 | 敬老事業 |
|-------|------|

事務事業の概要・計画(PLAN)の補足

事業の性格

- 独立した事業であり、このシートだけで十分事業の説明が可能である。
- 下記に掲げる事業と密接な関係があり、これらのシートと合わせてこの事業の説明が可能である。

| 事業コード | 事務事業名 | 事務事業の概要 |
|-------|-------|---------|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

事業の類似性

- 独自性が強く、類似する事業は思い浮かばない。
- 下記に掲げる事業において、摘要に掲げる項目に関し類似性が認められる。

| 事業コード | 事務事業名 | 摘要 |
|-------|-------|----|
| | | |
| | | |
| | | |

事業活動の内容・成果(DO)の補足

直接事業費(単位:千円)の内訳(説明に必要と思われる項目を列記すること)

| 直接事業費 | 14,118 | (決算額の数値を記入) | |
|-------------|--------|-------------|-------------------|
| 節 | 細節 | 事業費 | 摘要 |
| 報償費 | 報償費 | 1,445 | 敬老祝金、米寿記念品 |
| 需用費 | 消耗品費 | 37 | 額縁等 |
| 需用費 | 印刷製本費 | 1 | 封筒等 |
| 役務費 | 通信運搬費 | 17 | 郵送代金 |
| 負担金・補助及び交付金 | 補助金 | 12,618 | 敬老会実施事業費補助金 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 上記以外の事業費合計 | | 0 | 一般事務費、上記で書き表せないもの |

その他の補足

添付資料は用意すること

別添添付資料

- 位置図(施設の場所、作業場所など)
- パンフレット
- その他国や県が出している参考資料
- その他(独自に作成した概要、説明資料)
- 特になし

参考データ

- 伊予市ホームページ
 (検索ワード)
- その他参考となるホームページ
 (検索ワード)

事務事業の概要・計画 (PLAN)

| | | | | | | | |
|----------------|--|------|--------------|-------------------|-------------------|-------|---------------------|
| 事務事業名 | ふれあいプラザ運営事業 | 会計名称 | 一般会計 | | 担当課 | 長寿介護課 | |
| | | 予算科目 | 3 款 1 項 10 目 | 事業番号 | 1362 | 所属長名 | 室潤子 |
| 事業評価の有無 | <input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ) | | | | 担当責任者名 | 木下里香 | |
| 法令根拠等 | 老人福祉法、伊予市高齢者福祉増進施設条例 | | | | 実施期間 | 【開始】 | 平成 17 年度 |
| 総合計画での位置付け | 健康福祉都市の創造 健やかで生きがいの持てる高齢者福祉の実践 | | | | | 【終了】 | 平成 年度(予定) ■ 設定なし |
| 総合計画における本事業の役割 | 介護予防・生きがいづくりの推進 | | | 事業の対象 | 伊予市に住所を有する60歳以上の者 | | |
| 事業の目的 | 介護予防拠点施設として、高齢者が要介護状態にならないよう各種の相談に応じるとともに、健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を供与し、高齢者に健康で明るい生活を営ませることを目的とする。 | | | 昨年度の課題 | | | |
| 事業の内容 (整備内容) | 指定管理協定により、施設の管理運営は指定管理者によって行なわれ、施設の大規模な修繕と工事は市が行なう。 施設名：「唐川ふれあいプラザ」「佐礼谷ふれあいプラザ」 指定管理者：伊予市社会福祉協議会、中山梅寿会 | | | 昨年度の課題に対する具体的な改善策 | | | |

事業活動の内容・成果 (DO)

| 事業費及び財源内訳 (千円) | | | | | | | 事業活動の実績 (活動指標) | | | | | | | | | | | |
|----------------------|-----------|---|---------------------------|--------|-----------------------|--------|-----------------|-------|------------|------------|------------|------------|--|---|--|--|--|--|
| 項目 | 前年度決算 | 当初予算額 | 補正予算額 | 継続費その他 | 翌年度繰越 | 決算額 | 項目 | 単位 | 29年度実績 | 30年度予定 | 9月末の実績 | 30年度実績 | | | | | | |
| 直接事業費 | 2,882 | 12,987 | 0 | 421 | 0 | 13,307 | 佐礼谷利用延人数 (開館日数) | 人 (日) | 5540 (365) | 5000 (360) | 2041 (156) | 3873 (310) | | | | | | |
| 財源内訳 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 国庫支出金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| 県支出金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| 地方債 | | 10,000 | 0 | 0 | 0 | 10,000 | | | | | | | | | | | | |
| その他 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 唐川利用延人数 (開館日数) | 人 (日) | 3620 (256) | 3500 (240) | 1933 (133) | 3669 (254) | | | | | | |
| 一般財源 | 2,882 | 2,987 | 0 | 421 | 0 | 3,307 | | | | | | | | | | | | |
| 職員の人工 (にんく) 数 | 0.02 | 0.02 | | | | 0.02 | | | | | | | | | | | | |
| 1人工当たりの人件費単価 | 8,017 | 7,982 | | | | 7,982 | | | | | | | | 0 | | | | |
| ※ 直接事業費+人件費 | 3,042 | 13,147 | | | | 13,467 | | | | | | | | | | | | |
| 主な実施主体 | 委託 | | 実施形態 (補助金・指定管理料・委託料等の記載欄) | | 指定管理料 (唐川) 事業収入 (佐礼谷) | | | | | | | | | | | | | |
| 向こう5年間の直接事業費の推移 (千円) | | | | | 31年度 | 32年度 | 33年度 | 34年度 | 35年度 | 5年間の合計 | | | | | | | | |
| | | | | | 3,200 | 3,200 | 3,200 | 3,200 | | 12,800 | | | | | | | | |
| 成果指標 | 指標 | 唐川ふれあいプラザの1日平均利用者数 | 単位 | 人 | ⇒ | 区分年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 目標 | 毎年度 | | | | | | | |
| | 指標設定の考え方 | 佐礼谷ふれあいプラザは主に介護保険事業所の利用であるため、唐川ふれあいプラザの利用促進の成果を指標とした。 | | | | 目標 | 15 | 15 | 15 | 15 | | | | | | | | |
| | 指標で表せない効果 | 高齢者の健康の増進と教養の向上による介護予防効果 | | | | 実績 | 14.1 | 14.4 | | | | | | | | | | |

事務事業評価 (CHECK)

| 新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過) | | 佐礼谷ふれあいプラザは介護保険事業所として梅寿会が新施設を建設し事業継続が図られたため、高齢者増進施設としては年度末で終了した。 | | | | | | | | | |
|---------------------------------|----------------|--|-----------------------|-----------------------|---|---|---|---|---------------------------|---|--|
| 事務事業評価 | 自己判定 (担当責任者) | 妥当性 | 目的の妥当性 | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 | 3 | 合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | B | 事業成果・工夫した点 事業の苦労した点・課題 | 佐礼谷ふれあいプラザは高齢者増進施設としての利用はほとんどなく、ほぼ介護保険事業であったことから、梅寿会により介護保険事業所が建設されたため、条例改正等、必要な手続を経て、年度末で終了した。 | |
| | | | 社会情勢等への対応 | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 | 3 | | | | | |
| | | | 市の関与の妥当性 | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 | 3 | | | | | |
| | | 有効性 | 事業の効果 | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 | 3 | 合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | B | | | |
| | | | 成果向上の可能性 | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 | 3 | | | | | |
| | | | 施策への貢献度 | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 | 3 | | | | | |
| | 効率性 | 手段の最適性 | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 | 3 | 合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | B | | | | |
| | | コスト効率 | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 | 3 | | | | | | |
| | | 市民 (受益者) 負担の適正 | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 | 3 | | | | | | |
| | 一次判定 (所属長) | 妥当性 | 目的の妥当性 | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 | 2 | 合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | C | | 事業の方向性 所 属 長 の 課 題 認 識 | <input type="checkbox"/> 事業継続と判断する。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業縮小と判断する <input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する (判断の理由) 佐礼谷ふれあいプラザは施設の老朽化に伴い、検討を重ね、利用実態に合わせて指定管理者である社会福祉法人がデイサービスセンターを建設したことにより、本施設は平成31年3月31日をもって廃止した。 |
| | | | 社会情勢等への対応 | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 | 2 | | | | | |
| | | | 市の関与の妥当性 | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 | 3 | | | | | |
| 有効性 | | 事業の効果 | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 | 3 | 合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | C | | | | |
| | | 成果向上の可能性 | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 | 2 | | | | | | |
| | | 施策への貢献度 | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 | 2 | | | | | | |
| 効率性 | 手段の最適性 | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 | 2 | 合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | B | | | | | |
| | コスト効率 | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 | 3 | | | | | | | |
| | 市民 (受益者) 負担の適正 | 5 4 3 2 1 | 5 4 3 2 1 | 3 | | | | | | | |

| | | | | |
|-----------|------|-------------------------------------|---|--|
| 施策を踏まえた判断 | 二次判定 | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。 | ⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。 |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業継続と判断する。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。 | |

| | | |
|------------|------|-------|
| 行政評価委員会の答申 | 外部評価 | 答申の内容 |
| | | |

今後の方向性 (ACTION)

| | | | |
|---------|--------------------------|------------------|-------|
| の経営者判断議 | 事業の方向性 | | コメント欄 |
| | <input type="checkbox"/> | さらに重点化する。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 現状のまま継続する。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 右記の点を見直しの上、継続する。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 事業の縮小を行う。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 事業の休止、廃止を行う。 | |

No,12

事務事業の概要・計画 (PLAN)

| | | | | | | | |
|----------------|---|------|--------------|------|-------------------|-------------------|---|
| 事務事業名 | デイサービスセンター運営事業 | 会計名称 | 一般会計 | | 担当課 | 長寿介護課 | |
| | | 予算科目 | 3 款 1 項 10 目 | 事業番号 | 1363 | 所属長名 | 室潤子 |
| 事業評価の有無 | <input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ) | | | | 担当責任者名 | 木下里香 | |
| 法令根拠等 | 老人福祉法、伊予市デイサービスセンター条例、介護保険法 | | | | 実施期間 | 【開始】 | 平成 17 年度 |
| 総合計画での位置付け | 健康福祉都市の創造 健やかで生きがいの持てる高齢者福祉の実践 | | | | | 【終了】 | 平成 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし |
| 総合計画における本事業の役割 | 介護予防・生きがいづくりの推進により、高齢者が地域で尊厳を持って自立した日常生活を送ることができるよう支援する。 | | | | 事業の対象 | 介護認定を受けた方や総合事業対象者 | |
| 事業の目的 | デイサービス利用の円滑化により対象者の生活の支援、社会的孤立感の解消、心身機能の維持向上等を図るとともに、その家族の負担を軽減する。 | | | | 昨年度の課題 | | |
| 事業の内容 (整備内容) | 指定管理者制度により、施設の管理運営は指定管理者によって行なわれ、施設の大規模な修繕と工事は市が行なう。 施設名：「もものさと」「じゅらく」 指定管理者：えひめ中央農協、伊予市社会福祉協議会 | | | | 昨年度の課題に対する具体的な改善策 | | |

事業活動の内容・成果 (DO)

| 事業費及び財源内訳 (千円) | | | | | | | 事業活動の実績 (活動指標) | | | | | | |
|----------------------|-----------|---------------------------|---------------------------|--------|--------------------|-------|-------------------|-------|------------|------------|------------|------------|--|
| 項目 | 前年度決算 | 当初予算額 | 補正予算額 | 継続費その他 | 翌年度繰越 | 決算額 | 項目 | 単位 | 29 年度実績 | 30 年度予定 | 9月末の実績 | 30 年度実績 | |
| 直接事業費 | 122 | 233 | 0 | 0 | 0 | 122 | もものさと利用延人数 (開館日数) | 人 | 4946 (309) | 4700 (310) | 2462 (156) | 4860 (308) | |
| 財源内訳 | | | | | | 0 | | | | | | | |
| 国庫支出金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | |
| 県支出金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | |
| 地方債 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | じゅらく利用延人数 (開館日数) | 人 | 3272 (256) | 3000 (250) | 1483 (128) | 2974 (254) | |
| その他 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | |
| 一般財源 | 122 | 233 | 0 | 0 | 0 | 122 | | | | | | | |
| 職員の人工 (にんく) 数 | 0.04 | 0.04 | | | | 0.04 | | | | | | | |
| 1人工当たりの人件費単価 | 8,017 | 7,982 | | | | 7,982 | | | 0 | | | | |
| ※ 直接事業費+人件費 | 443 | 552 | | | | 441 | | | | | | | |
| 主な実施主体 | 委託 | | 実施形態 (補助金・指定管理料・委託料等の記載欄) | | 事業収入 (指定管理料は支払わない) | | | | | | | | |
| 向こう5年間の直接事業費の推移 (千円) | | | | | 31 年度 | 32 年度 | 33 年度 | 34 年度 | 35 年度 | 5年間の合計 | | | |
| | | | | | 500 | 500 | 500 | 500 | | 2,000 | | | |
| 成果指標 | 指標 | もものさとの1日平均利用人数 | 単位 | 人 | ⇒ | 区分年度 | 29 年度 | 30 年度 | 31 年度 | 目標 | 毎年度 | 16 | |
| | 指標設定の考え方 | 利用人数÷開館日数 | | | | 目標 | 15 | 16 | 16 | | | | |
| | 指標で表せない効果 | 在宅要介護高齢者へのサービス提供による介護予防効果 | | | | 実績 | 16 | 15.8 | | | | | |

事務事業評価 (CHECK)

| | | | | | | | | | |
|---------|----------------|---|---|---|---|---|---|---------------------------|--|
| | | 新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過) | | 平成31年度で指定管理の協定が終了することから、民間でのデイサービス事業が充実してきたことを受け、今後の方向性について協議を行っている。 | | | | | |
| 事務事業の評価 | 自己判定 (担当責任者) | 妥当性 | 目的の妥当性 | 5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 | 3 | 合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | B | 事業成果・工夫した点 事業の苦勞した点・課題 | 利用者がいることから協定終了後の運用について、早めの検討を開始した。 |
| | | | 社会情勢等への対応 | 5 4 3 2 1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 | 3 | | | | |
| | | | 市の関与の妥当性 | 5 4 3 2 1 今は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 | 2 | | | | |
| | | 有効性 | 事業の効果 | 5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 | 3 | | | | |
| | | | 成果向上の可能性 | 5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 | 2 | | | | |
| | | | 施策への貢献度 | 5 4 3 2 1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。 | 3 | | | | |
| | 効率性 | 手段の最適性 | 5 4 3 2 1 施策推進につなげている。 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 | 3 | | | | | |
| | | コスト効率 | 5 4 3 2 1 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 | 3 | | | | | |
| | | 市民 (受益者) 負担の適正 | 5 4 3 2 1 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 | 3 | | | | | |
| | 一次判定 (所属長) | 妥当性 | 目的の妥当性 | 5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 | 3 | 合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | C | | ■ 事業継続と判断する。 <input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する <input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する (判断の理由) 介護予防のため通所系サービスの提供は必要であるが、介護保険サービスとして社会資源が地域に充足したことから見直しが、必要であるが、現時点では継続とする。 |
| | | | 社会情勢等への対応 | 5 4 3 2 1 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 | 1 | | | | |
| | | | 市の関与の妥当性 | 5 4 3 2 1 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 | 1 | | | | |
| 有効性 | | 事業の効果 | 5 4 3 2 1 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 | 2 | | | | | |
| | | 成果向上の可能性 | 5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 | 2 | | | | | |
| | | 施策への貢献度 | 5 4 3 2 1 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。 | 3 | | | | | |
| 効率性 | 手段の最適性 | 5 4 3 2 1 施策推進につなげている。 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 | 2 | | | | | | |
| | コスト効率 | 5 4 3 2 1 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 | 2 | | | | | | |
| | 市民 (受益者) 負担の適正 | 5 4 3 2 1 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 | 2 | | | | | | |
| | | 事業の苦勞した点・課題 | | 介護予防のため通所系サービスの提供は必要であるが、介護保険事業者によるサービスが地域で充足されたことにより指定管理契約満了に合わせて見直しが、必要である。 | | 所 属 長 の 課 題 認 識 | | | |

| | | | | |
|-----------|------|-------------------------------------|--|---|
| 施策を踏まえた判断 | 二次判定 | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。 | ⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。 |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業継続と判断する。 | |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。 (低評価のため行政評価委員会に諮る。) 事業継続とするが、所属長の意見のとおり、デイサービスセンター事業を公が行っていく必要性について検討する必要がある。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。 | |

| | | |
|------------|------|-------|
| 行政評価委員会の答申 | 外部評価 | 答申の内容 |
| | | |

今後の方向性 (ACTION)

| | | | |
|---------------------------------|--------------------------|------------------|-------|
| の 最 終 会 判 断 議 | 事業の方向性 | | コメント欄 |
| | <input type="checkbox"/> | さらに重点化する。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 現状のまま継続する。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 右記の点を見直しの上、継続する。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 事業の縮小を行う。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 事業の休止、廃止を行う。 | |

事務事業の概要・計画(PLAN)の補足

事業の性格

- 独立した事業であり、このシートだけで十分事業の説明が可能である。
- 下記に掲げる事業と密接な関係があり、これらのシートと合わせてこの事業の説明が可能である。

| 事業コード | 事務事業名 | 事務事業の概要 |
|-------|----------------|-----------------------|
| 1362 | ふれあいプラザ運営事業費 | ふれあいプラザ(施設)の指定管理による運営 |
| 1364 | 三世代交流拠点施設運営事業費 | 三世代交流拠点施設の指定管理による運営 |
| | | |
| | | |

事業の類似性

- 独自性が強く、類似する事業は思い浮かばない。
- 下記に掲げる事業において、摘要に掲げる項目に関し類似性が認められる。

| 事業コード | 事務事業名 | 摘要 |
|-------|-------|----|
| | | |
| | | |
| | | |

事業活動の内容・成果(DO)の補足

直接事業費(単位:千円)の内訳(説明に必要と思われる項目を列記すること)

| 直接事業費 | | 122 | (決算額の数値を記入) |
|------------|-----|-----|-------------------|
| 節 | 細節 | 事業費 | 摘要 |
| 役務費 | 手数料 | 8 | 浄化槽法定検査手数料 |
| 委託料 | | 114 | 消防設備点検等 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 上記以外の事業費合計 | | 0 | 一般事務費、上記で書き表せないもの |

その他の補足

添付資料は用意すること

別添添付資料

- 位置図(施設の場所、作業場所など)
- パンフレット
- その他国や県が出している参考資料
- その他(独自に作成した概要、説明資料)
- 特になし

参考データ

- 伊予市ホームページ
 (検索ワード)
- その他参考となるホームページ
 (検索ワード)

事務事業の概要・計画 (PLAN)

| | | | | | | | |
|----------------|--|------|--------------|-------------------|------------------|-------|---------------------|
| 事務事業名 | 三世交代流拠点施設運営事業 | 会計名称 | 一般会計 | | 担当課 | 長寿介護課 | |
| | | 予算科目 | 3 款 1 項 10 目 | 事業番号 | 1364 | 所属長名 | 室潤子 |
| 事業評価の有無 | <input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ) | | | | 担当責任者名 | 木下里香 | |
| 法令根拠等 | 伊予市介護予防三世交代流拠点施設条例 | | | | 実施期間 | 【開始】 | 平成 17 年度 |
| 総合計画での位置付け | 健康福祉都市の創造 健やかで生きがいの持てる高齢者福祉の実践 | | | | | 【終了】 | 平成 年度(予定) ■ 設定なし |
| 総合計画における本事業の役割 | 幅広い年齢層の地域コミュニティの場を提供し、利用促進を図る。 | | | 事業の対象 | 市内在住の青少年、壮年及び高齢者 | | |
| 事業の目的 | 市内在住の青少年、壮年、高齢者の三世交代流を図り、健康増進及び介護予防を支援するとともに地域コミュニティの増進に資する。 | | | 昨年度の課題 | | | |
| 事業の内容 (整備内容) | 指定管理協定により、みたに、上吾川、永木の3館の管理運営を地元で組織する運営協議会に委託し、施設の維持管理や目的達成のための事業を行う。 | | | 昨年度の課題に対する具体的な改善策 | | | |

事業活動の内容・成果 (DO)

| 事業費及び財源内訳 (千円) | | | | | | | 事業活動の実績 (活動指標) | | | | | |
|----------------------|-----------|-------------------|---------------------------|--------|-------|-------|------------------------|-------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 項目 | 前年度決算 | 当初予算額 | 補正予算額 | 継続費その他 | 翌年度繰越 | 決算額 | 項目 | 単位 | 29 年度実績 | 30 年度予定 | 9月末の実績 | 30 年度実績 |
| 直接事業費 | 8,638 | 8,992 | 0 | 0 | 0 | 8,739 | みたにふれあい館利用延人数 (開館日数) | 人 (日) | 5297 (287) | 5500 (270) | 3095 (168) | 6027 (336) |
| 財源内訳 | 国庫支出金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 上吾川ふれあい館利用延人数 (開館日数) | 人 (日) | 5413 (266) | 5500 (270) | 2795 (139) | 5641 (268) |
| | 県支出金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| | 地方債 | | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| | その他 | | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| 一般財源 | 8,638 | 8,992 | 0 | 0 | 0 | 8,739 | | | | | | |
| 職員の人工 (にんく) 数 | 0.02 | 0.02 | | | | 0.02 | 永木ふれあい館利用延人数 (開館日数) | 人 (日) | 935 (245) | 1000 (240) | 334 (126) | 646 (247) |
| 1人工当たりの人件費単価 | 8,017 | 7,982 | | | | 7,982 | | | | | | |
| ※ 直接事業費+人件費 | 8,798 | 9,152 | | | | 8,899 | | | | | | |
| 主な実施主体 | 委託 | | 実施形態 (補助金・指定管理料・委託料等の記載欄) | | 指定管理料 | | ぐんちゅうふれあい館利用延人数 (開館日数) | 人 (日) | 20759 (292) | 21000 (260) | 11149 (148) | 21874 (290) |
| 向こう5年間の直接事業費の推移 (千円) | | | | | 31 年度 | 32 年度 | 33 年度 | 34 年度 | 35 年度 | 5年間の合計 | | |
| | | | | | 8,900 | 8,900 | 8,900 | 8,900 | 8,900 | 44,500 | | |
| 成果指標 | 指標 | 上吾川ふれあい館の1日平均利用人数 | | | 単位 | 人 | 区分年度 | 29 年度 | 30 年度 | 31 年度 | 目標 毎 年度 | |
| | 指標設定の考え方 | 利用人数÷開館日数 | | | ⇒ | 目標 | 20 | 20 | 20 | 20 | | |
| | 指標で表せない効果 | 地域コミュニティの進展 | | | | 実績 | 20.3 | 21 | | | | |

事務事業評価 (CHECK)

| | | | | | | | | | | |
|-----|--------------|---------------------------------|--|--|---|---|---|---------------------------|--|--|
| | | 新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過) | | みたにふれあい館の外壁工事を実施した。来年度で協定が終了することを受け、永木ふれあい館については利用人数が大幅に減少していることから今後について協議を開始した。また各施設の利用料についても検討をはじめた。 | | | | | | |
| 事業 | 自己判定 (担当責任者) | 妥当性 | 目的の妥当性 | 5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 | 3 | 合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | B | 事業成果・工夫した点 事業の苦勞した点・課題 | ほとんどの施設は一定の利用者があり、地域コミュニティの場として有効に活用が図られている。 | |
| | | | 社会情勢等への対応 | 5 4 3 2 1 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 | 3 | | | | | |
| | | | 市の関与の妥当性 | 5 4 3 2 1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 | 2 | | | | | |
| | | 有効性 | 事業の効果 | 5 4 3 2 1 市は関与しないで、民間や市民団体に委ねるべきである。 | 3 | | | | | |
| | | | 成果向上の可能性 | 5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に大いに貢献している。 | 3 | | | | | |
| | | | 施策への貢献度 | 5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 | 3 | | | | | |
| | 効率性 | 手段の最適性 | コスト効率 | 5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 | 3 | | | | | |
| | | | 市民 (受益者) 負担の適正 | 5 4 3 2 1 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 | 2 | | | | | |
| | | | | 5 4 3 2 1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 | 3 | | | | | |
| | 一次判定 (所属長) | 妥当性 | 目的の妥当性 | 5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 | 3 | 合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | B | | 事業の方向性 | ■ 事業継続と判断する。 □ 事業縮小と判断する □ 事業廃止と判断する (判断の理由) 地域コミュニティの場として現時点では継続とするが、永木ふれあい館については利用人数が大幅に減少していることから、検討が必要である。 |
| | | | 社会情勢等への対応 | 5 4 3 2 1 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 | 3 | | | | | |
| | | | 市の関与の妥当性 | 5 4 3 2 1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 | 3 | | | | | |
| 有効性 | | 事業の効果 | 5 4 3 2 1 市は関与しないで、民間や市民団体に委ねるべきである。 | 3 | | | | | | |
| | | 成果向上の可能性 | 5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に大いに貢献している。 | 2 | | | | | | |
| | | 施策への貢献度 | 5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 | 2 | | | | | | |
| 効率性 | 手段の最適性 | コスト効率 | 5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 | 2 | | | | | | |
| | | 市民 (受益者) 負担の適正 | 5 4 3 2 1 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 | 3 | | | | | | |
| | | | 5 4 3 2 1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 | 3 | | | | | | |
| 評価 | 所属長 | 効率性 | コスト効率 | 5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 | 2 | 合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | C | 所 属 長 の 課 題 認 識 | 地域コミュニティの場は必要であるが、永木ふれあい館については利用人数が大幅に減少していることから、検討が必要である。 | |
| | | | 市民 (受益者) 負担の適正 | 5 4 3 2 1 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 | 3 | | | | | |
| | | | | 5 4 3 2 1 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 | 3 | | | | | |

| | | | | |
|-----------|------|-------------------------------------|--|--|
| 施策を踏まえた判断 | 二次判定 | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。 | ⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。 |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業継続と判断する。 | |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。 (低評価のため行政評価委員会に諮る。) 永木ふれあい館は利用人数が低迷しており、今後の施設のあり方について検討すること。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。 | |

| | | |
|------------|------|-------|
| 行政評価委員会の答申 | 外部評価 | 答申の内容 |
| | | |

今後の方向性 (ACTION)

| | | | |
|--------|--------------------------|------------------|-------|
| の経営者判断 | 事業の方向性 | | コメント欄 |
| | <input type="checkbox"/> | さらに重点化する。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 現状のまま継続する。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 右記の点を見直しの上、継続する。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 事業の縮小を行う。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 事業の休止、廃止を行う。 | |

No,14

事務事業の概要・計画 (PLAN)

| | | | | | | | |
|----------------|---|------|-------------|-------------------|---|-------|---|
| 事務事業名 | [8130] (介保)在宅高齢者家族介護手当支給事業 | 会計名称 | 介護保険特別会計 | | 担当課 | 長寿介護課 | |
| | | 予算科目 | 3 款 3 項 4 目 | 事業番号 | 9807 | 所属長名 | 室潤子 |
| 事業評価の有無 | <input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ) | | | | 担当責任者名 | 福積秀子 | |
| 法令根拠等 | 介護保険法 | | | | 実施期間 | 【開始】 | 平成 17 年度 |
| 総合計画での位置付け | 健康福祉都市の創造 健やかで生きがいの持てる高齢者福祉の実践 | | | | | 【終了】 | 平成 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし |
| 総合計画における本事業の役割 | 高齢者福祉の推進 | | | 事業の対象 | 伊予市内に住所を有し、介護保険のサービスを利用せずに、在宅で要介護4及び要介護5の高齢者を常時介護している同一世帯の者 | | |
| 事業の目的 | 介護者の経済的負担の軽減 | | | 昨年度の課題 | | | |
| 事業の内容 (整備内容) | 介護保険サービスを受けていない期間を継続して1年間有している要介護4及び要介護5の高齢者を在宅で介護する市民税非課税世帯の同居家族に対し、年額60,000円の介護手当を支給する。 | | | 昨年度の課題に対する具体的な改善策 | | | |

事業活動の内容・成果 (DO)

| 事業費及び財源内訳 (千円) | | | | | | | 事業活動の実績 (活動指標) | | | | | |
|----------------------|-----------|----------------------------|--------------------------|--------|-------|-------|----------------|------|--------|--------|--------|--------|
| 項目 | 前年度決算 | 当初予算額 | 補正予算額 | 継続費その他 | 翌年度繰越 | 決算額 | 項目 | 単位 | 29年度実績 | 30年度予定 | 9月末の実績 | 30年度実績 |
| 直接事業費 | 0 | 60 | 0 | 0 | 0 | 0 | 本庁地区支給人数 | 人 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 財源内訳 | | | | | | | | | | | | |
| 国庫支出金 | | 15 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| 県支出金 | | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| 地方債 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| その他 | | 30 | 0 | 0 | 0 | 0 | 中山地区支給人数 | 人 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 一般財源 | 0 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| 職員の人工(にんく)数 | 0.10 | 0.10 | | | | 0.10 | 双海地区支給人数 | 人 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 1人当たりの人件費単価 | 8,017 | 7,982 | | | | 7,982 | | | | | | |
| ※ 直接事業費+人件費 | 802 | 858 | | | | 798 | | | | | | |
| 主な実施主体 | 直接実施 | | 実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄) | | 一部補助金 | | | | | | | |
| 向こう5年間の直接事業費の推移 (千円) | | | | | 31年度 | 32年度 | 33年度 | 34年度 | 35年度 | 5年間の合計 | | |
| | | | | | 60 | 60 | 60 | 60 | 60 | 300 | | |
| 成果指標 | 指標 | 申請により新たに介護手当を受給することができた人数 | 単位 | 人 | ⇒ | 区分年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 目標 | 毎年度 | 1 |
| | 指標設定の考え方 | 申請者の増加により介護者の経済的負担の軽減が図れる。 | | 目標 | | 1 | 1 | 1 | 1 | | | |
| | 指標で表せない効果 | 在宅介護者の慰労 | | 実績 | | 0 | 0 | | | | | |

事務事業評価 (CHECK)

| 新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過) | | 介護手当支給の対象者の変更により、対象となる者がいない状況である。 | | | | | | | | |
|---------------------------------|----------------|--|---|---|---|---|---|---------------------------|-----------------|---|
| 事務事業評価 | 自己判定 (担当責任者) | 妥当性 | 目的の妥当性 | 5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 | 3 | 合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | B | 事業成果・工夫した点 事業の苦労した点・課題 | 支給対象者がいない状況である。 | |
| | | | 社会情勢等への対応 | 5 4 3 2 1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 | 2 | | | | | |
| | | | 市の関与の妥当性 | 5 4 3 2 1 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 | 3 | | | | | |
| | | 有効性 | 事業の効果 | 5 4 3 2 1 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 | 3 | | | | | |
| | | | 成果向上の可能性 | 5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 | 2 | | | | | |
| | | | 施策への貢献度 | 5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。 | 2 | | | | | |
| | 効率性 | 手段の最適性 | 5 4 3 2 1 施策推進につなげている。 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 | 2 | | | | | | |
| | | コスト効率 | 5 4 3 2 1 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 | 3 | | | | | | |
| | | 市民 (受益者) 負担の適正 | 5 4 3 2 1 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 | 3 | | | | | | |
| | 一次判定 (所属長) | 妥当性 | 目的の妥当性 | 5 4 3 2 1 この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 | 3 | 合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D | B | | 事業の方向性 | ■ 事業継続と判断する。 <input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する <input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する (判断の理由) 国の実施要綱に沿って実施しており、制度利用の必要な対象者がいれば、継続は必要である。 |
| | | | 社会情勢等への対応 | 5 4 3 2 1 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 | 3 | | | | | |
| | | | 市の関与の妥当性 | 5 4 3 2 1 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 | 3 | | | | | |
| 有効性 | | 事業の効果 | 5 4 3 2 1 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 | 2 | | | | | | |
| | | 成果向上の可能性 | 5 4 3 2 1 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 | 2 | | | | | | |
| | | 施策への貢献度 | 5 4 3 2 1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。 | 2 | | | | | | |
| 効率性 | 手段の最適性 | 5 4 3 2 1 施策推進につなげている。 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 | 2 | | | | | | | |
| | コスト効率 | 5 4 3 2 1 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 | 3 | | | | | | | |
| | 市民 (受益者) 負担の適正 | 5 4 3 2 1 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 | 4 | | | | | | | |
| 所属長の課題認識 | 所属長の課題認識 | 国の実施要綱に沿って実施しており、制度利用の必要な対象者がいれば、継続は必要であるが、現在の利用状況から見て検討が必要であり、国の動向も確認して今後の方向性を検討していく必要がある。 | | | | | | | | |

| | | | | |
|-----------|------|-------------------------------------|---|--|
| 施策を踏まえた判断 | 二次判定 | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。 | ⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。 |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業継続と判断する。 | |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。 (低評価のため行政評価委員会に諮る。) 国の要綱に基づいて行っている事業であり、事業継続と判断するが、今後、国の動向に留意する必要がある。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。 | |

| | | |
|------------|------|-------|
| 行政評価委員会の答申 | 外部評価 | 答申の内容 |
| | | |

今後の方向性 (ACTION)

| | | | |
|--------|--------------------------|------------------|-------|
| の経営者判断 | 事業の方向性 | | コメント欄 |
| | <input type="checkbox"/> | さらに重点化する。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 現状のまま継続する。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 右記の点を見直しの上、継続する。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 事業の縮小を行う。 | |
| | <input type="checkbox"/> | 事業の休止、廃止を行う。 | |

平成30年度事務事業補助シート

事務事業名 (介保)在宅高齢者家族介護手当支給事業

事務事業の概要・計画(PLAN)の補足

事業の性格

- 独立した事業であり、このシートだけで十分事業の説明が可能である。
- 下記に掲げる事業と密接な関係があり、これらのシートと合わせてこの事業の説明が可能である。

| 事業コード | 事務事業名 | 事務事業の概要 |
|-------|-------|---------|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

事業の類似性

- 独自性が強く、類似する事業は思い浮かばない。
- 下記に掲げる事業において、摘要に掲げる項目に関し類似性が認められる。

| 事業コード | 事務事業名 | 摘要 |
|-------|----------|----|
| 8130 | 介護用品支給事業 | |
| | | |
| | | |

事業活動の内容・成果(DO)の補足

直接事業費(単位:千円)の内訳(説明に必要と思われる項目を列記すること)

直接事業費 0 (決算額の数値を記入)

| 節 | 細節 | 事業費 | 摘要 |
|------------|--------|-----|-------------------|
| 扶助費 | その他扶助費 | 0 | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 上記以外の事業費合計 | | 0 | 一般事務費、上記で書き表せないもの |

その他の補足

添付資料は用意すること

別添添付資料

- 位置図(施設の場所、作業場所など)
- パンフレット
- その他国や県が出している参考資料
- その他(独自に作成した概要、説明資料)
- 特になし

参考データ

- 伊予市ホームページ
在宅高齢者家族介護手当 (検索ワード)
- その他参考となるホームページ
 (検索ワード)

外部評価に付された事務事業一覧（スケジュール）

伊予市行政評価委員会

| 番号 | 資料 | 事務事業名 | 部門名 | 備考 | 日程 |
|----|----|---------------------|----------|----------------------|------------------------|
| 1 | ○ | 行政評価運用事業 | 未来づくり戦略室 | 委員選定 | 第2回審議 R1. 7. 31(水) |
| 2 | ○ | 移住・定住推進事業 | 未来づくり戦略室 | 二次判定（重要） | |
| 3 | ○ | 地域活力創造事業 | 総務課 | H29外部評価・低評価 | 4階大会議室 |
| 4 | ○ | 防災訓練事業 | 危機管理課 | 委員選定 | |
| 5 | ○ | 自主防災組織等育成事業 | 危機管理課 | 委員選定 | 第3回審議 R1. 8. 7(水) |
| 6 | ○ | （国保）保健衛生普及事業 | 市民課 | 委員選定 | |
| 7 | ○ | 社会福祉協議会事業 | 福祉課 | 委員選定 | |
| 8 | ○ | 声の広報発行事業 | 福祉課 | 委員選定 | 4階大会議室 |
| 9 | ○ | 生活困窮者自立支援事業 | 福祉課 | H30外部評価・低評価 | |
| 10 | ○ | （介保）介護保険認定事務 | 長寿介護課 | 委員選定 | 第4回審議 R1. 9. 4(水) |
| 11 | ○ | 敬老事業 | 長寿介護課 | 低評価 | |
| 12 | ○ | ふれあいプラザ運営事業 | 長寿介護課 | 二次判定(縮小)・低評価 | 4階大会議室 |
| 13 | ○ | デイサービスセンター運営事業 | 長寿介護課 | 低評価 | |
| 14 | ○ | 三世代交流拠点施設運営事業 | 長寿介護課 | 低評価 | 第5回審議 R1. 9. 18(水) |
| 15 | ○ | （介保）在宅高齢者家族介護手当支給事業 | 長寿介護課 | 低評価 | |
| 16 | | 戸別所得補償制度推進事業 | 農業振興課 | 低評価 | 4階大会議室 |
| 17 | | 中山農産加工場管理運営事業 | 農業振興課 | H30外部評価・二次判定(縮小)・低評価 | |
| 18 | | 県営ため池等整備事業 | 農林水産課 | 委員選定 | |
| 19 | | 林業成長産業化総合対策交付金事業 | 農林水産課 | 委員選定 | 4階大会議室 |
| 20 | | 車両基地・貨物駅周辺整備対策事業 | 都市住宅課 | 委員選定 | |
| 21 | | 公園管理事業 | 都市住宅課 | 委員選定 | 第6回審議 R1. 10. 2(水) |
| 22 | | がけ崩れ防災対策事業 | 土木管理課 | 委員選定 | |
| 23 | | 急傾斜地崩壊対策事業 | 土木管理課 | 委員選定 | |
| 24 | | 特産品センター管理運営事業 | 経済雇用戦略課 | 二次判定(縮小)・低評価 | 4階大会議室 |
| 25 | | 遊栗館管理運営事業 | 経済雇用戦略課 | 二次判定(縮小)・低評価 | |
| 26 | | 小学校空気調和設備設置事業 | 学校教育課 | 委員選定・二次判定(重要) | 第7回審議 R1. 10. 16(水) |
| 27 | | 中学校空気調和設備設置事業 | 学校教育課 | 委員選定・二次判定(重要) | |
| | | 外部評価意見確定 | / | / | 4階大会議室 |